

※実務経験のある教員による授業科目

授業概要

「音楽実技Ⅱ」同様に学校等の音楽教員経験や、作編曲、ピアノ演奏等の実務経験がある教員の下で、ピアノ演奏や歌唱法等について指導する。ピアノのソロ演奏や伴奏法、弾き歌いの個人レッスンを中心としながらも、演奏に必要な音楽理論についても取り上げる。実際に演奏する力を学ぶことで、音楽の「学ぶ楽しさ、知るよろこび」を体感し、教育者として音楽を探究する力を身に付けることを目的とする。このようなレッスンを通して、基礎的な音楽実技の技能を身に付け、自らが「自立」して音楽を探究し、その実践によって他者と「共生」できる人材を育成する。

授業計画

第 1 回	ガイダンス、個々のレベルの把握
第 2 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の選曲
第 3 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の譜読み
第 4 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の検討
第 5 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の工夫
第 6 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の応用
第 7 回	課題曲①（ピアノソロ及び弾き歌い）の暗譜
第 8 回	中間試験
第 9 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の選曲
第 10 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の譜読み
第 11 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の検討
第 12 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の工夫
第 13 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の演奏表現の応用
第 14 回	課題曲②（ピアノソロ及び弾き歌い）の暗譜
第 15 回	課題曲①及び②の復習
第 16 回	期末実技試験

到達目標

- ① 音楽を歌唱によって表現できる。
- ② 音楽をピアノ演奏で表現できる。
- ③ 音楽を弾き歌いによって表現できる。

履修上の注意

- (1) 楽器や練習室は大切に使うこと。
- (2) 手元を清潔に保つこと。
- (3) 試験に向けて計画性をもって取り組むこと。

予習・復習

- (1) 毎日音楽を聴いたり、楽譜を読んだりして、日常的に音楽に触れる時間を確保すること。
- (2) 毎日ピアノや歌の練習を行い、継続的に取り組むこと。
- (3) 友人の演奏にも興味をもち、相乗的に学修すること。

評価方法

実技試験 40%、中間試験 40%、授業への参加態度 20%、

テキスト

- ・教科書名：(1)改訂 ポケットいっぱいのおと (2) おとなのためのピアノ教本 I
 - ・著者名：(1) 鈴木恵津子他 (2) 橋本晃一
 - ・出版社名：(1)教育芸術社 (2)ドレミ楽譜
 - ・出版年 (ISBN)：(1)2011 年(9784877788485) (2)1992 年(978-4810801040)
- (2)は進度に応じて授業内で相談の上、決定する。その他プリントや進度に応じた教材。